

モバイル利用のライフスタイル・アプローチⅡ

—取得方法別に見る特性について—

○水野 一成, 近藤 勢津子 (NTTドコモ モバイル社会研究所), 鮎戸 弘 (東京大学名誉教授)

キーワード: ライフスタイル, ICT, 防災, 災害情報

1. 研究背景

モバイル利用のライフスタイル・アプローチⅠでは、災害時の情報の取得方法の経年変化をみた。本稿では、最新調査(2021年1月実査)の結果から、取得方法別の特性について、分析した結果を報告する。

2. 調査概要

調査時期: 2021年1月

対象: 全国 15歳-79歳 調査方法: web調査

3. 分析方法

災害時に最も重要視する方法(単一回答)の回答結果から、3つの群(①公的・人伝[防災無線・広報車・自治組織・知人], ②メディア[テレビ・ラジオ], ③ICT[SNS・インターネット・スマホアプリ・エリアメール、緊急速報メール])に分け、それを目的変数とし、またライフスタイル等を説明変数とし、数量化理論第Ⅱ類を用いて、それぞれの群と特性を明らかにしていく。

4. 分析結果

まず、判別グラフ(図1)を見ると、3群(ICT)が負の方向に、1・2群(公的・人伝、メディア)が正の方向に分かれている。そのため、1軸は「ICT」の特性を明らかにする軸と解釈する。なおそれぞれの平均値は1群(公的・人伝)が0.37、2群(メディア)は0.12、3群(ICT)は-0.29であった。

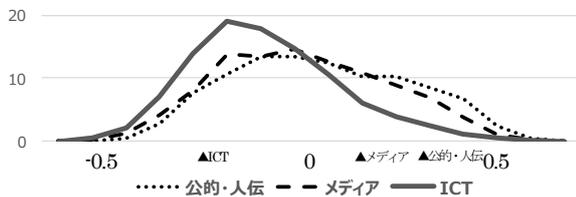


図1 判別グラフ

なお、判別率的中率は50.0%、1軸の相関比 η は0.28であった。次に、説明変数の偏相関係数をみる(表1)。最も偏相関係数が高いのは「年代」、次いで「日頃のニュースの取得方法」「都市区分」と続いた。

それでは偏相関係数の高い説明変数について、カテゴリースコア(図2)でその結果を、考察してみる。「年代」は20代で大きく負の方向、つまりICT重視に傾いた。

30, 40代がICTに傾き、10代そして50代以降と続く。

「日頃のニュースの取得方法」を見ると、SNS等でニュースを見る層のみ、ICT重視群に傾いた。「都市規模」でみると、大都市ほどICT重視の傾向が見られた。また、性別や家族構成等では差は小さい。

表1 説明変数の偏相関係数

アイテム名	レンジ	偏相関係数	順位
年代	1.387	0.122	1位
ニュース取得	0.997	0.084	2位
都市区分	0.719	0.078	3位
SNS得点	0.898	0.071	4位
スマホ所有時期	0.729	0.068	5位
防災意識	0.415	0.057	6位
地域	0.484	0.044	7位
時間的ゆとり	0.209	0.021	8位
愛着	0.141	0.020	9位
性別	0.123	0.018	10位
経済的ゆとり	0.165	0.013	11位
独居	0.081	0.009	12位
インバータ	0.033	0.004	13位

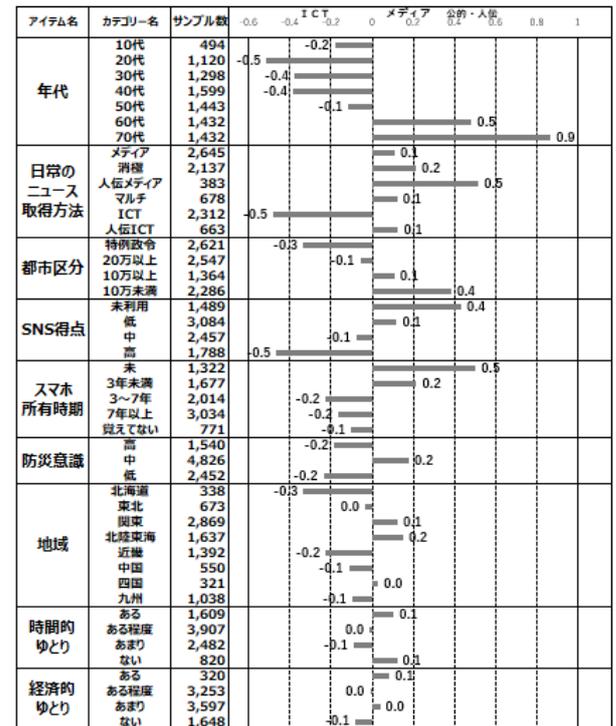


図2 カテゴリースコア

5. 考察

今回の結果、年代だけではなく、日頃のニュース方法の取得の差異や都市規模による差異があることが明らかになった。発災時の避難誘導等、情報をどのように伝えるかは重要な課題である。今回の知見を活かし、より効果的な方法を考えていきたい。